

クールベと海

フランス近代 自然へのまなざし

Courbet and the Sea

Eyes on Nature in the 19th Century

2020.12.19_土 → 2021.2.21_日



FUKUYAMA MUSEUM OF ART

ふくやま美術館

開催概要

19世紀フランスで活躍した画家ギュスターヴ・クールベ（1819-1877）は、現実を理想化して表現するそれまでの絵画を否定し、目の前の世界を「あるがまま」に描いたレアリズム（写実主義）の画家として知られています。時の政治や伝統的な美術に激しく反発し、悲惨な労働者の姿を写實的に描いたり、浴女の姿を卑俗的に描くなど、「美しい」ものを表現すべきであった「美術」の概念を大きく変えました。

またクールベは、故郷であるフランシュ＝コンテ地方の切りたった山や森、そこに息づく動物たち、フランス北部のノルマンディー地方の海など、厳しい自然の姿を繰り返し描いています。

スイス国境近くの山々に囲まれた小さな町オルナンに生まれたクールベが、初めて海を目にしたのは22歳の時でした。うねる波、どこまでも続く水平線に圧倒され、特に1860年代以降、好んでその情景を描き、当時の人々から賛辞を得ました。波のみに肉薄したクールベの作品には、それまでの時代に描かれた物語性や感傷性に富む海とも、後の世代が描いた海水浴の情景を描いた身近な海とも、異なる視点で海が捉えられています。

本展では、クールベの海の絵画を中心として、故郷を描いた風景画や狩猟画、またモネやミレーなど他の画家たちが描いた海を含む65点を展覧し、海、そして自然へのまなざしが大きく変わる時代にこの近代絵画の革新者がどのように自然と対峙したかを探ります。

展覧会情報

展覧会名：クールベと海 ―フランス近代 自然へのまなざし

会場：ふくやま美術館 企画展示室

会期：2020年12月19日（土）―2021年2月21日（日）

休館日：月曜日 ※1/11（月・祝）は開館、12/29（火）～1/1（金・祝）、1/12（火）は休館

開館時間：9：30～17：00

主催：（公財）ふくやま芸術文化財団 ふくやま美術館、福山市、読売新聞社、美術館連絡協議会

協賛：ライオン、大日本印刷、損保ジャパン

後援：在日フランス大使館／アンステイチュ・フランセ日本

協力：日本航空、船の科学館「海の学び ミュージアムサポート」

問い合わせ：小池久美子（広報）、鈴木一生（展覧会内容）

〒720-0067 広島県福山市西町2丁目4番3号

Tel：084-932-2345 Fax：084-932-2347

E-mail：art2@city.fukuyama.hiroshima.jp



公式 HP



FUKUYAMA MUSEUM OF ART

ふくやま美術館

広島県福山市西町二丁目4番3号 電話084-932-2345 JR福山駅北口から西へ400m

クールベとは？

—伝統美術の破壊者？

ギュスターヴ・クールベ (1819-1877) は、近代において「美術」の概念を大きく変えた芸術家です。19世紀までの美術は、目の前の自然を基にしながらも、現実には存在しない「理想の美」を想像により創り上げてきました。一方でクールベは、自然や現実社会の「あるがまま」の姿を、たとえそれが「美」を備えていないとしても、そのままにキャンバスに写しとりました。目の前の自然を見たままに描く、同時代の社会をそのまま描くという考え方は、クールベ以後、クロード・モネ (1840-1926) やエドガー・ドガ (1834-1917) といった印象主義の画家たちに引き継がれていきました。

クールベは、フランス東部、スイス国境近くのジュラ山脈の山々に囲まれた小さな町オルナンに生まれました。20歳の時にパリに上京し、サロン (パリの公式美術展覧会) に作品を出品し続け、1849年には田舎の日常の風俗を描いた《オルナンの食休み》(リール美術館蔵) にて2等賞を受賞し、無審査の資格を得ます。

クールベがスキャンダラスな絵画を矢継ぎ早に発表するのは、その後、1850年代のことです。1850年、縦3m、横6mを超える記念碑的な大きさで名もなき人物の埋葬の情景を描いた《オルナンの埋葬》(オルセー美術館蔵)、そしてぼろぼろの服を着、過酷な労働に従事する親子の姿をあからさまに表現した《石割り》(焼失) をサロンに発表し、大きな物議をかもしました。第1回



ナダール「ギュスターヴ・クールベの肖像写真」1860年頃

万国博覧会がパリで開催された1855年には、この国家を挙げたイベントの前で、自身の展示室を自費で建てました。そこで、時の権力者たちを批判的に描いた《画家のアトリエ》(オルセー美術館蔵) を含む自身の作品を発表したのです。これは世界初の大々的な個展と言われます。このカタログ序文において、過去の芸術を否定し、自分の生きた時代の社会を映し出すことを目指すという、いわゆる「リアリズム宣言」を発表します。

その後も体制的な芸術や時の政治と対立関係を深めるクールベでしたが、普仏戦争後の混乱を極めていたパリにおいてコミューンに参加。権力の象徴であるヴァンドーム広場の円柱破壊の罪を問われ、投獄の末、莫大な賠償金が課されました。画家は、スイスに亡命し、この地で個人の顧客に向けた制作を続けながらも、1877年に亡くなります。

🌊 見どころ 1

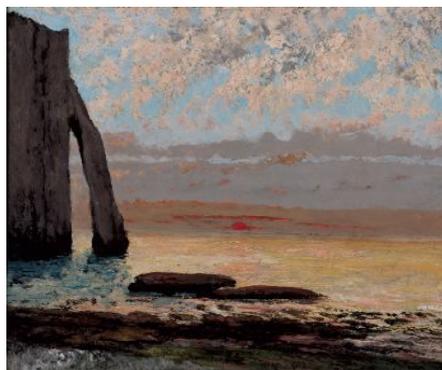
クールベの海に着目した本邦初の展覧会

山に囲まれた地で育ったクールベにとって、海は身近な存在ではありませんでした。22歳の時、ノルマンディー地方を旅した画家は、初めて海を見た感動を両親に興奮交じりに伝えています。「私たちはついに海を、地平線のない海を見ました。これは谷の住民にとって奇妙なものです。」

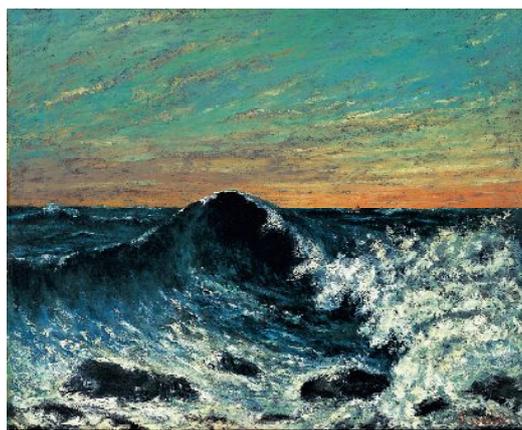
クールベが、海を自身の作品の題材として消化するのは、それから20数年後のことです。1865年から1869年にかけて、毎年のようにトゥルーヴィルやドーヴィル、エトルタなどノルマンディーの海岸に出かけ、生涯に100点以上の海を主題にした作品を残しました。物語性を排除し、目の前の海そのものを描いたクールベの絵画は、彼以前の海景画にはない、独自のものでした。

国内では1989年に本格的なクールベの展覧会が開催されて以来、彼が描いた山岳風景や狩猟に着目した展覧会が企画されてきましたが、後年に繰り返し描いた「海の風景画」に着目した展覧会は今回が初めてです。近年、クールベの海を主題にした作品は、画家と美術市場との関係、同時代の中での考察、政治的暗喩など、多様な側面において研究されており、単純に数的に多いばかりではなく、芸術家の画業を読み解くうえで、重要な位置づけがなされてきています。本国フランスでは、2004年、2019年にクールベの海をテーマにした展覧会が企画されています。本展は、それら最新の研究成果を反映したものとなっております。

ふくやま美術館では、国内所蔵作品を中心として、14点のクールベの海を主題にした作品が展示されます。



《エトルタ海岸、夕日》1869年
新潟県立近代美術館・万代島美術館蔵



《波、夕暮れにうねる海》1869年
ヤマザキマザック美術館蔵
※福山会場のみ出品



《波》1870年 オルレアン美術館蔵
©2020 Musée des Beaux-Arts, Orléans

※作家名がないものは全てギュスターヴ・クールベ作

見どころ 2

ミレーやモネも出品！！ —18世紀から19世紀の海の表現を振り返る

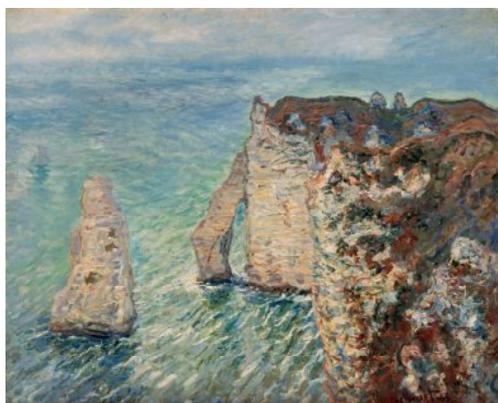
本展は、クールベの海の展覧会であると同時に、西洋における18世紀から19世紀にかけての海の表現を俯瞰する展覧会です。

西洋において、聖書の物語で海の情景が描かれたり、国の富を象徴する目的で港が描かれることは、歴史上多数ありますが、海そのものが鑑賞の対象になったのは、18世紀以降のことです。イギリスで生まれた「崇高」という概念は、畏怖を伴うスリリングな見るべき情景としての海を人々に浸透させました。本展では、自然風景へのまなざしを大きく変えたウィリアム・ギルピン(1724-1804)の書籍や、畏怖を伴いながらも海の多様な姿を見事に描いたクロード＝ジョゼフ・ヴェルネ(1714-1789)の絵画なども紹介します。

またクールベが海を描いた19世紀は、西洋の人々にとって急速に海が身近な存在になる時代でした。世紀半ばに海辺まで開通した鉄道により、都会の新興ブルジョワジーたちは容易に海まで足を延ばすことができるようになり、ノルマンディーの海岸沿いに開発されたレジャー施設でこぞって余暇を過ごすこととなります。本展は、同時代の水着を資料展示すると共に、浜辺に集う海水浴客を描いたウジェーヌ・ブーダン(1824-1898)や海辺の光の移り変わりを描いたクロード・モネの作品などを展観することにより、立体的にクールベが生きた時代の海を感じられるものとなっています。



クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ 《嵐の海》1740年頃
静岡県立美術館蔵



クロード・モネ 《アヴァルの門》1886年
島根県立美術館蔵



ウジェーヌ・ブーダン 《浜辺にて》個人蔵



資料展示「19世紀末頃の水着」
神戸ファッション美術館蔵

見どころ3

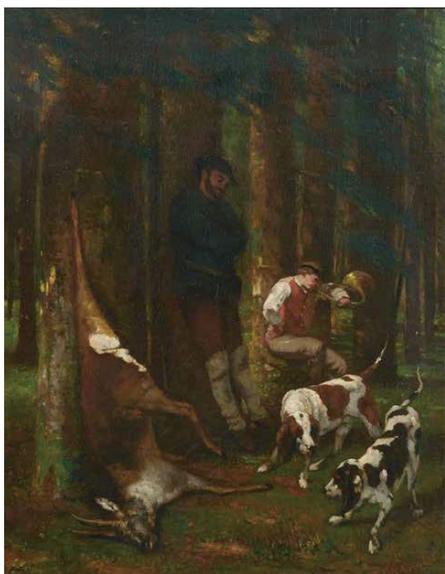
海景画だけじゃない！

—クールベの自然のまなざしを探る

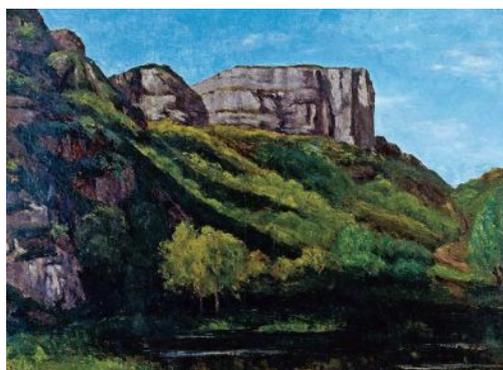
本展では、海景画のみならず、クールベの自然へのまなざしを探るべく、画家が故郷の情景を描いた風景画、そして狩猟画を紹介します。

クールベが生きた時代、現実の自然の情景を描いた風景画は、公の展覧会においても少しずつ認められていき、人々に人気の題材となっていきました。産業革命により身近な自然を失い、都会生活に疲れた人々は、自然の情景に癒しを求めます。また田舎の牧歌的な生活に憧れさえ抱くようになりました。本展にも展示されるバルビゾン派の画家たちは、それら同時代の人々の需要に応えるべく、パリ郊外に広がるフォンテーヌブローの森、その近隣の村人たちの生活を情緒的に描きました。

一方で山間の土地に生まれ育ったクールベにとって、自然は必ずしも理想的な姿を持ったものではありませんでした。画家の故郷であるフランシュ＝コンテ地方は、深い森に囲まれた渓谷と無数の鍾乳洞、切りたった崖があり、変化に富んだ自然の風景を観察できる情景に恵まれていました。クールベは、このよく知った風景を生涯を通して描き続けます。クールベの風景画や狩猟画には、身近にあり、時に交差しながらも、決して理解し合うことはできない、厳しい自然の姿が表現されています。本展では、クールベが初めてサロンに出品した狩猟画と同構図の作品や、故郷を象徴する岩を描いた作品など、貴重な作品とともにクールベの自然へのまなざしを追います。



《狩の獲物》1856-62年頃 個人蔵



《岩山の風景、ジュラ》1856年
美術館ギャルリ・ミレー（富山）蔵



《雪景色》国立西洋美術館蔵
（松方コレクション）

見どころ4

西日本では福山だけの開催！！

ふくやま美術館は、未来派を中心としたイタリア 20 世紀美術のコレクションで全国的に知られていますが、実はモーリス・ド・ヴラマンクやアルベール・マルケ、マルク・シャガールなど、フランスで活躍した多数の芸術家たちの作品を所蔵しています。それらの多くは、安田博志氏が 40 年に渡り収集してきた貴重なコレクションであり、2012 年に当館に寄贈されたものです。

本展は、このコレクションの中でも重要な作品、クールベ《波》を出発点として企画されたものです。ふくやま美術館の呼びかけの下、山梨県立美術館、パナソニック汐留美術館との共同で企画されました。

関東甲信越以外の地域で本展が見られるのは、ふくやま美術館だけです。

【巡回先】

山梨県立美術館 2020 年 9 月 11 日(金)－11 月 3 日(火・祝) (終了)

パナソニック汐留美術館 2021 年 4 月 10 日(土)－6 月 13 日(日)



《波》1869年 ふくやま美術館蔵 (安田コレクション)

関連イベント①

■記念講演会 稲賀繁美先生「今 クールベを『読む』」

多様な比較文化、文化交流史について研究しており、19世紀フランス美術史を専門とする稲賀繁美氏による講演会です。時代によって作られる「芸術家像」を丁寧に読み解いていくその手法は圧巻です。

講師／稲賀繁美氏（国際日本文化研究センター・総合研究大学院大学教授）

日時／2021年1月9日（土）14：00～15：30

会場／1階ホール

定員／60名 ※先着順・聴講無料

■第59回ミュージアムコンサート「熊本マリ ピアノコンサート」

閉館後の美術館にて、一流のアーティストの演奏と展覧会が共に楽しめる毎年好評のミュージアムコンサート。本年は、情熱のピアニスト熊本マリ氏をクリスマスの夜にお招きし、ショパンやドビュッシーなど、クールベが生きた時代にフランスで活躍した作曲家の楽曲を中心にお届けいたします。

※参加者は開場から開演までの間、本展覧会をお楽しみいただけます。

出演／熊本マリ（ピアノ）

日時／2020年12月25日（金）開場18：00、開演19：00

会場／1階ロビー

定員／70名 ※応募多数の場合は抽選

料金／一般1,000円、高校生以下無料

応募方法／往復はがき、または市HP電子申請システムに「熊本マリピアノコンサート希望」「参加人数（一般○人、高校生以下○人）」「郵便番号」「住所」「代表者名」「電話番号」を明記し、ご応募ください。

締切／11月30日（月）必着



ふくやま美術館・神辺文化会館・沼隈サンパル連携事業

「熊本マリ ピアノの旅コンサート」

◎12月26日（土）14：00～

会場：神辺文化会館 大ホール TEL 084-963-7300

◎12月27日（日）14：00～

会場：沼隈サンパル ホール TEL 084-987-1866

※新型コロナウイルスの感染拡大等により変更があった場合は、ふくやま美術館ホームページなどでお知らせします。

関連イベント②

■ワークショップ① 短期実技講座 A

「フランス額装（アンカードルモン）－私だけのお洒落な額づくり」

フランス額装（encadrement）とは、絵やポストカードなどの作品を、フレームやマットなどのデザインや質感とコーディネートすることで、より引き立てるためのテクニック。フランスで学び、専門の国家試験を取得した向井理依子氏の指導の下、世界に一つだけの額を作ります。

講師／向井理依子氏（額装家 /art d'encadrement 主宰）

日時／2021年2月7日（日）13：00～16：00

会場／2階工芸版画室 対象／高校生以上

定員／8名 ※応募多数の場合は抽選

受講料／3,500円（材料費込み）

応募方法／往復はがき、または市HP電子申請システムに「講座名」

「郵便番号」「住所」「名前」「電話番号」を明記し、ご応募ください。（※1名につき1通まで）

締切／1月22日（金）必着



■ワークショップ② 子ども造形教室 「ボトルシップをつくろう」

港町神戸で大人気の「ボトルシップ教室」。30年以上に渡り神戸海洋博物館とともに活動しているボトルシップ愛好会の方々をお招きし、親子で楽しめるボトルシップ教室を開催します。

講師／神戸海洋博物館ボトルシップ愛好会

日時／2021年1月31日（日）12：30～16：00

会場／2階多目的室

対象／小・中学生 ※子ども1名につき、保護者1名同伴

定員／15名 ※応募多数の場合は抽選

参加費／1,500円（材料費込み）

応募方法／往復はがき、または市HP電子申請システムに「講座名」「郵便番号」「住所」「名前（保護者と子ども）」「電話番号」「子どもの年齢（学年）」を明記し、ご応募ください。

締切／1月20日（水）必着



イベント応募先

〒720-0067 福山市西町二丁目4番3号 ふくやま美術館「クールベと海」関連イベント係

■ギャラリートーク

ふくやま美術館学芸員であり、本展企画者によるギャラリートークです。細心の注意を払いながら、コロナ後初の特別展ギャラリートークを行います。

日時／2020年12月20日（日）、2021年1月24日（日）、2月13日（土）各日14：00～

会場／1階企画展示室 ※特別展観覧券が必要